

緑風会

〔視察日程〕
2月5日～6日

〔視察研修先〕

静岡県藤枝市
静岡県清水市

〔参加議員〕
瀧澤征幸

萩野幸弘
新田勝負

◆アグリフューチャー
藤枝の概要

▽平成22年1月、漢方



藤枝市での研修

薬の原料となる薬用農作物の栽培を行う生産組織として「藤枝市薬用農作物生産出荷組合アグリフューチャー藤枝」を設立
▽薬用農作物として「ミシマサイコ」の契約栽培を展開
▽組合員数：62名↓現在42名
▽作付面積*約3ha
▽必要な機材は組合で所持し貸与する
▽事務局：藤枝市農林課

◆ミシマサイコについて

・お茶をはじめとした農作物の価格低迷、農業者の高齢化、イノシシ被害などのため、農業経営安定化につながる作物を検討していた。
・漢方薬の原料となる「ミシマサイコ」は、地元製薬会社との契約栽培が可能であり、同社から奨められた薬草



薬草ミシマサイコ

である。
・ミシマサイコは、乾燥に強く、発芽までは灌水が必要であるが、その後は不要であり、作業の手間が軽減される。一人での作業も可能となる。
・匂いが強烈なため、鳥獣害の被害がほとんどない。
・耕作放棄地（遊休農地）の再生として、ミシマサイコ作付面積の約半分は耕作放棄地を活用している。※耕作放棄地再生利用緊急対策事業（例 国1/2、県1/4、市1/4）、補助金によりミシマサイコ実証圃を設置。
・平成25年度から、地元製薬会社の了解により新たな除草剤の使用が可能となった。除草の省力化に向け、より

効果的なマルチ栽培の研究が必要である。除草作業は栽培のリタイアの大きな要因となっているためである。
・採算性については明快な回答がなかったが、恐らく労力分を換算すると赤字になるとのこと。しかし、高齢者対策、耕作放棄地の再生、有害鳥獣対策には打って付けの作目ではないだろうか。

■以上のことから、遠



藤枝市議会議場にて

会派合同視察研修

（新興会・清風会・緑風会）



バイオマスパワーしずくいしの説明員の話に熱心に聞き入る委員たち

〔視察日程〕
2月20日～21日

〔視察研修先〕

栗石町株式会社バイ
オマスパワーしず
くいし

青森県上北郡東北町
JAゆうき青森

〔参加議員〕

菊池邦夫、瀧本孝一、
菊池由紀夫、菊池
民彌、浅沼幸雄、荒
川栄悦、菊池巳喜
男、照井文雄、萩
野幸弘、新田勝負
（順不同）

◆環境に配慮したバイ
オマス資源の循環
サイクルの促進

バイオマスパワーしずくいしは、平成16年に資本金3千万で小岩井農牧をはじめ4社1町で設立され、平成18年から事業を開始した。小岩井農場で飼養する搾乳牛や肥育牛、鶏が排泄する糞尿を主体に、町内の学校等給食加工残さと食品加工会社からのコーヒークラカシ、おからな

どの固形物1日11.5トンを受け入れ、100%リサイクル処理している。食品残渣：家畜糞尿は固液分離し、液分がメタン発酵設備に送られ、メタンガスエンジンにより発電する。固液は、減菌装置を通じて消化液（液肥）となる。固液分離された固形物は、堆肥化設備に送られ、一次発酵二次発酵を経て堆肥となる。

■電力

【場内使用】
2,000 kw/日

■場外売電

2,000 kw/日

■消化液

農場へ52t/日販売
液肥として土中注入
散布

■堆肥

農場へ29t/日販売
ガスエンジン発電機により電力と排熱を得て、電力は場内利用・売電し、排熱は家畜糞尿・食品残渣の昇温と

メタン発酵槽の保温に利用されている。小岩井農場で排出される家畜の排せつ物処理は、環境面で課題があった。平成16年に家畜排せつ物適正処理法が施行され、いわゆる野積み等が禁止された。このことにより、当農場に限らず飼養規模に見合う処理施設や堆肥舎などが設置された。最終的に産出される消化液・堆肥は場内に投入されることから、重金属の蓄積が懸念される魚介類や、防疫の観点から肉類等の受け入れはしていない。環境とエネルギーがしっかりと調和し、リサイクルする施設整備と運営実績は極めて高いと感じた。

◆東北町の概要

小川原湖を「宝湖」と呼び、シラウオとワカサギの漁獲量が日本一。ほかにシジミなど、1年を通して採れる魚介類が豊富である。農業では、水稲をはじめ生産量日本一を誇るナガイモ、根菜類や葉た



東北町役場での研修

※【エコ・ファーミングPBCとは】
「健康な畑に健康な野菜が育つ」との信念から、JA独自で設定した認証システムのこと。基本となるは場目標値を設定し、土壌診断結果と巡回確認によって登録された生産は場ごとに認証している。

◆JAゆうき青森の「有機の里」構想
JAゆうき青森は、東北町・七戸町・野辺地町・六ヶ所村で構成された地域である。販売品販売高134億円、購買品供給高59億円で、行政が主要施設の洗浄選別貯蔵・下位等級品の処理加工施設整備をしっかりと支えている。おいしい安全野菜の産地づくりを目標し、土づくりに有効な堆肥の製造と土壌診

断に基づく施肥改善のための分析センターと堆肥センター・有機供給センターを整備している。耕畜連携により、循環型の農業を構築している。営農指導体制も品目担当から地区担当制とし、更に部会事務等から開放し、指導業務に専念する体制としている。JAゆうき青森では、エコ・ファームリングPBC認証を取得し、「安くておいしい、消費者に選ばれ続ける野菜と産地」を目指す取り組みを進めている。